

第104回全国高校野球選手権青森大会

2回戦

黒石 0120201110 | 8
 八学野西 0500001111x | 9
 (延長10回)

(黒) 根深愛、小枝世一北山
 (八) 樋口、斎藤一伊藤
 ▷三塁打 北山(黒) 中塚2、工藤友(八)
 ▷二塁打 柏崎(黒) ▷暴投 根深愛、小枝世(黒)▷ボーク 小枝世(黒) 樋口(八)
 ▷試合時間 2時間49分
 (球審=滝田、塁審=三浦、花松、吉岡)

【評】八学野西は1点を追う九回、三塁打の工藤友が天間の左犠飛でかえり、土壇場で同点に追い付いた。延長十回は1死から中塚が右越えに三塁打。続く田頭が左中間を破る一打を放ちサヨナラ勝ちした。黒石は終盤3度リードしたが、逃げ切れなかった。



【黒石 八学野西】延長10回にサヨナラ打を放ち、チームメイトとハグタッチする八学野西の田頭優輝(右から3人目)。(八学野西) 樋口、斎藤一伊藤

ハイライト
 八学野西は延長9度のリードを許しながらも、裏の攻撃ですぐさま追い付き、粘り強さを見せ、延びた瞬間は、気持ち良かったと笑顔で振り返った。左中間に決勝打を放った田頭優輝は「ランナーをかえした一心だった。(打球は)抜けた瞬間は、気持ち良かったと笑顔で振り返った。」

終盤3度追い付き、田頭決勝打

野西 歓喜サヨナラ

黒石10人で善戦

○…部員10人の黒石が、強豪の八学野西を最後まで苦しめた。無念のサヨナラ負けに、3年の小枝世那と北山依風輝主将は、あふれる涙を拭いながら「これまでで一番楽しかった」。

二回に先制したのもつかの間、直後に5点を奪われたが、黒石ナインは諦めなかった。大瀬蓮監督の「楽しもう」というかけ声に鼓舞され、積極的な打撃で三回に2点、五回に2点を挙げ同点に。七回以降は互いに1点ずつを挙げるシーソーゲームを演じた。

二回途中から継投した小枝世は、捕手北山の好配球もあって緩急を織り交ぜながら辛抱強く投げ抜き、延長に持ち込んだ。だが、114球目の「甘く入ってしまった」というスライダーを左中間に運ばれ、試合終了。

「敗れたが、自分たちがいい野球を買けた」と充実感をにじませた2人。夢の続きは先輩に託した。

黒石・小枝伶央(九回に勝ち越しの内野安打を放ち)「勝ちたいという気持ちで変化球に食らい付いた。先輩と一緒にもらった野球が良かった」

「初戦という硬さや空回りがあった」と寺嶋恭祐監督。黒石に1点を先制された直後の一回裏、打者一巡の猛攻で5点を奪い逆転。試合の流れを引き寄せた。

しかし、三回に先発種口輝がボークや連続四球でピンチを広げると、黒石打線の反撃を受け、五回には試合を振り出しに戻された。

七回以降も1点ずつ加えられ、3度背中を追う展開に。重苦しい雰囲気は漂ったが、柴田守唯主将は「絶対勝つぞ」とナインを鼓舞し続けた。

後がない九回、先頭の工藤友喜が右越え三塁打で出塁すると、1死後に天間佑紀が左犠飛を放ち、同点に追い付いた。

延長十回1死三塁のチャンスで打席に立った田頭は「緊張しなかったが、来た球を外野に運びたかった」と高めの真っすぐを振り抜き、劇的勝利をもたらした。

次戦は強豪工大との対決。柴田主将は「(工大)一は敗れた。昨夏のリベンジ。低く強い打球を徹底したい」と気を引き締めた。(磯野雄太郎)

八学野西・天間佑(九回に同点の左犠飛)「リードされていて焦りもあったが思い切り振った。(次戦の)工大一戦は毎日以上に気持ちを入れて臨みたい」

【黒石】	打点	振球
① 古川	4	2102
② 根深愛	4	2011
③ 小枝世	3	2003
④ 北山	3	2300
⑤ 小枝伶央	3	3000
⑥ 柏崎	3	2201
⑦ 根深愛	3	0021
⑧ 斎藤	4	0021
⑨ 樋口	4	0020
捕手伊藤	4	0020
2050	9	3611869

【八学野西】	打点	振球
① 中塚	5	2011
② 田頭	3	2110
③ 斎藤	3	1011
④ 小枝	3	0012
⑤ 伊藤	3	1010
⑥ 天間	3	1101
⑦ 工藤	3	0000
⑧ 樋口	2	0010
⑨ 日	1	0001
⑩ 日	1	0010
捕手伊藤	1	0010
450	11	3510578

投手	打点	振球	失
根深愛	1	16	3
小枝世	7	31	7

捕手	口	5	25	6	3	5	5
勝	5	22	5	3	5	3	4